

白河地区保護司会

会報 しらかわ

責任者

会長：三森 繁

サポートセンター

白河市表郷番沢字和田46-9

TEL 0248-21-5922

編集者：広報委員会

題字：金澤 暎仁

会報アドレス

http://www.srkw.or.jp/~mimo/hogoshi/

保護司信条

私たちが保護司は、社会奉仕の精神をもって

一、公平と誠実を旨とし、過ちに陥った人たちの更生に尽くします。

一、明るい社会を築くため、すべての人々と手を携え、犯罪や非行の防止に努めます。

一、常に研鑽に励み、人格見の向上に努めます。

平成六年五月制定



『大池公園(あゆり池)』

大池公園は、昭和59年から「水・花・緑が香る公園」をテーマに総合公園として整備され、春の桜に始まり、初夏の大賀ハス・睡蓮、年間を通して景観を楽しめるアカマツ林など、四季折々の自然が楽しめる憩いの場、他にもキャンプ場、スポーツ広場などもあり、町民はもとより多くの皆様に親しまれております。

大池は、昔から「あゆり池」とも言われ、そこから流れる川(堀川)は、あゆり川と称され、新田開拓の貴重な水源として下流水田を潤し、町の東部を経て阿武隈川にそそいでおります。



ご挨拶

白河地区保護司会

会長 三森 繁

繁

明けましておめでとうございませう。元号が令和に替わって初めて迎える新年です。佳き年になつてもういたいと思つております。

昨年十月には未曾有の台風十九号が上陸し、福島県下に死者二十九名という大きな傷跡を残しました。改めて犠牲者に対し、ご冥福をお祈りいたします。

また、大晦日には日本司法をあざ笑うが如く、日本を代表する自動車メーカー日産自動車の元社長兼最高経営責任

者のカルロス・ゴーンが、保釈中に日本から密出国しレバノンに逃亡しました。そして、米国とイランの関係も緊張感が漂い、いづうなるかもわからない事態が、当分の間続くのであろうか。心配事はきりがありません。

さて、二〇二〇年はオリンピック、パラリンピックの年です。そして、子の年は十二支の初めの年です。何事にもスタートの時と言われております。これにあやかり、日本全体が大きく希望を抱いて躍進したいものです。

今年の十一月五日には、我が白河地区保護司会において初めての福島県更生保護大会が白河市(白河文化交流館コミネス)で開催されます。関係機関並びに保護司各位には多大なご負担、ご協力をお願いすることとなりますが、よろしくお願いいたします。

また、平成二十九年七月十八日表郷多目的研修センター内に開設した白河地区保護司会サポートセンターは三年目を迎えます。保護司の処遇活動に対する支援や犯罪予防活動を行う拠点となり、現在まで個々の保護司の活動を支援し、相談や面接の場として活用してまいります。今後は、他団体との交流の場としても活用を図っていききたいと思っております。

社会を明るくする運動

すべての国民が犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全・安心な明るい地域社会を築こうとする全国的な運動です。



更生保護のマスコットキャラクター「更生ペンギン」のまごちゃん



更生保護と
保護司白河地区担当
保護観察官
齋藤 恵美

私は、昨年四月から白河地区を担当させていただいております。福島保護観察所の齋藤と申します。今回は、更生保護と保護司の役割についてお話ししたいと思います。

「更生保護」という言葉はあまり聞きなれないかもしれませんが、地域に「保護司」という人がいることや、「保護観察」という制度があるということなら、御存知の方も多いと思います。

保護司は、犯罪や非行のない明るい地域づくりのため活動する民間ボランティアですが、法務大臣から委嘱された非常勤の国家公務員です。ちなみに、白河地区では五十五名の保護司が活動しています。保護司は、保護観察官と協力しながら、犯罪や非行をした人たちの指導・支援を行ったり、刑務所や少年院に入所している人たちの帰る先を訪問して環境を調整したり、犯罪や非行を防ぐための広報・啓発活動をしたりする、更生保護制度には欠かせない存在です。

このような保護司の役割から分かるように、更生保護は、犯罪や非行をした人たちが健全な社会の一員として立ち直ることができるように、地域の中で見守り支えることで、犯罪や非行のない明るい社会を実現することを目的としています。

更生保護には、保護司のほかにも、更生保護女性会、BBS会、協力雇用主等のたくさんの方々がおり、保護司会との連携を図っています。現在、白河地区保護司会では、BBS会の設立の準備を進めております。BBS会は、非行をした少年に兄や姉のような立場で関わり更生を支えるボランティア団体です。

犯罪や非行をした人の立ち直りのためには、地域の皆様の御理解と御協力が必要です。そのためにも、更生保護について多くの方々に知っていただくべく、これからも保護司会と協力しながら努力していきたいと思います。

視察
研修

薬物依存回復施設視察

・三月二十六日
茨城ダルク・結城市茨城ダルク
視察研修に参加して

犯罪予防活動部会

國分 和好

茨城県結城市にある「茨城ダルク」へ今日一日ハウスで、代表の岩井喜代仁氏から薬物依存についての講義を受けた。

薬物は、誰でも簡単に入手することができるといえる時代であることの恐ろしさがある。薬物を繰り返し使用することで、自分ではやめられなくなる状態が薬物依存症である。

薬物依存症を解消する特效薬はなく、完治することがきわめて難しい病気である。適切な指導を受けながら薬物を使わない生活を繰り返すことで、社会人として問題なく生活できる事が可能となり、少しずつ回復させる事ができるのが「ダルク」である。

岩井氏からは「保護司は、薬物依存症の親に対し『ダルク』に繋ぐ役割を果たしてほしい」との要望であった。

私なりに覚醒剤、大麻、危険ドラッグ等について知識はありましたが、自ら覚醒剤薬物依

存に陥った岩井氏から、薬物に対する恐ろしさを聴き、薬物に対して再認識するとともに保護司として、対象者にどのような対処すべきか考えさせられた講演でした。



問題を提起された研修

財政部会 松田 隆志

保護司になって以来「一度はダルクに行っておかなければ」と思っておりました。

茨城ダルク「今日一日ハウス」に到着して、すぐに代表者の岩井喜代仁氏の講義が始まりました。驚かされたのが、保護司として対象者に面談をし

て相談に乗ったり、仕事を見つける手助けをすることを否定されたことです。

薬物依存症の対象者には、全てを本人の責任として負わせることだと言うのです。本人が苦しむと同時に家族も苦しんでいると言ったことをわからせることにより、再起を促すというものです。こういった手法は、諸外国で取り組まれており、一刻も早く日本も取り入れるべきだと力説しておられました。

今後の保護司の活動にどう生かしていけるか問題を提起された研修でした。



保護司としての抱負

保護司
小松道男

在職中、私は地域との関わりが持て無かったのが、何か関わりが出来るボランティアなどをしてみたいと考えていました。

そうする中、保護司の仕事に依頼され今日に至っています。受任した当初、保護司の仕事は犯罪を犯した人達と定期的な面談や助言で再犯防止の未然防止に導く事と思っていました。しかし、現実の壁は高く様々な問題があります。そのため積極的に研修に参加し、自己研鑽に励み、保護司の仕事に誇りを持ち、地域住民と対象者の共存安寧が図られるべく、寄与したいと思っています。

保護司
川瀬光子

昨年保護司となり、その責務の重大さに身が引き締まる思いと不安でいっぱいでした。

私は白河女子高校時代バレー部に所属し、全国大会へ出場する毎に学校をはじめ地域の方々にたくさん応援して頂きました。今の自分があるのはその時のお陰と、地域へ恩返しをするため市職員として貢献して来ました。

これからは保護司として活動する事が、地域への恩返しに繋がれば幸いです。ご指導の程よろしくお願い致します。

保護司
徳田芳江

この度、令和元年十二月一日付けで保護司に就任致しました。

保護司の研修を受講する度に、保護司というのは奥が深い仕事であり、かつ、責任が大きな仕事だと感じています。そのため、この重責を担うことができるのか、不安であります。が、諸先輩方の温かいご指導を受け、役割を果たしていく所存です。これから地域の安全、安心のため、貢献をしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

保護司
金沢富士子

白河市役所を退職して、三年が経過しようとしております。

昨年の七月頃に、市職員の先輩の方から保護司の話がありました。保護司の方々は私が知っている方もおり、心強く感じた思いから何も考えずにお引き受けしてしまいました。が、十二月の辞令交付式・研修会に行き事の重大さにびっくりいたしました。こんな指導が私にできるものであろうかと自問自答の日々が今も続いております。

今後は、先輩方の指導を受け、自覚を持ち、少しづつではあります。保護司の職務を務めたいと考えております。

皆様よろしくお願いいたします。

学校との
連携活動を通して

菅郷小学校(1月29日)

犯罪や非行のない、だれもが笑顔で過ごせる地域づくりは、地域に暮らす皆さんの願いでもあります。

そのため、子供たちが犯罪や非行に手を染める前に地域の中で様々な機関や団体と手を取り合っで見守り支えていくことが重要です。

特に、学校は子供の育成や成長を支える場所であることから、重要な連



矢吹中学校(1月29日)



携先の一つであります。

保護司会は、学校の状況を理解し、子供たちが抱える様々な問題に対応、連携を行うため今年度も引き続き学校訪問活動を実施しました。



五箇中学校(1月23日)



五箇小学校(1月23日)

訪問者(二月二十九日)

協力組織部会長

矢吹方部長

有賀良雄
大竹君江
吉田茂典
森田一實

今年度の活動

1 第六十九回 社会を明るくする運動

(1) メッセージ伝達

白河市(7月10日)

保護司、更女、少年補導員、
白河第一小児童クラブの
皆さん参加渡邊一仁観察所長より
田谷副市長へ

中島村(7月2日)

三森会長より加藤幸一村長へ
中島方部保護司参加

矢吹町(7月2日)



三森会長より野崎古郎町長へ 矢吹方部保護司参加

西郷村(7月2日)



三森会長より高橋廣志村長へ 西郷方部保護司参加

泉崎村(7月2日)



三森会長より久保木正大村長へ 泉崎方部保護司参加

白河市(7月10日)



市役所玄関・ロビーに七夕飾り

証明窓口
住民票、戸籍に関する証明書
各種申請、受領等
外国人登録申請書の受付
市役所市民課 窓口での広報

大型店頭でチラシ配布

(2) 街頭啓発活動

西郷村(7月26日)

大型店頭でチラシ配布
西郷村地域安全推進協議会とともに

矢吹町(7月2日)



矢吹駅でチラシ配布





中島村(11月2日)



なかしま輝ら輝らまつり

泉崎村(6月8日)



泉崎駅にて花壇づくり

西郷村(8月3日・4日)




村民体育館にて

白河市(6月1日)

(ロ) 西郷ミニバスケットボールフェスティバル大会



県大会予選会を兼ねる(白寿園にて)

(3) 他団体との連携事業

① 青少年健全育成活動

(イ) 第三十九回青少年健全育成小・中学生将棋大会

白河市(7月8日)



白河文化交流館コミネスにて

(ニ) 青少年健全育成推進大会
市内八中学校の代表者が発表

泉崎村(7月8日)



泉崎中学校にて

(ハ) 泉崎中学校一年生への
記念品贈呈
地区防犯指導隊と合同事業

茨城県結城市(2月26日)



茨城ダルクにて

② 薬物依存研修

中島村(11月29日)



中島中学校にて

(ホ) 中学校の人権教室

県南保健福祉事務所の薬物乱用防止活動について

福島県県南保健福祉事務所生活衛生部 医療薬事課長 仲川 照子

当所では、白河地区薬物乱用防止指導員の方とともに、一般住民に対して薬物の恐ろしさ等の周知のため、様々な啓発運動を実施しています。

普及啓発活動として学生ボランティアの協力を得て「ダメ。ゼッタイ。」普及運動六・二六ヤング街頭キャンペーンの実施、主に小中・高校生を対象とした「薬物乱用防止教室」や指導員等を対象とした薬物乱用防止の研修会等を行っております。

皆様ご存じのとおり、近年、薬物はネット等で容易に入手ができるようになっていいます。そのため、若者層へも広がっており引き続き薬物乱用防止への啓発等が必要です。

県南地域が「薬物乱用のない地域」となるよう、これからも皆様の御理解と御協力をいただきながら、薬物乱用防止に取り組んでいきたいと思っています。

第36回 県更生保護大会

・十一月八日
・福島市

受彰者(白河地区)

法務大臣表彰

安部 かよ子

更生保護法人全国保護司連盟理事長表彰

松尾 千鶴子

吉田 久美子

石田 美智子

東北地方更正保護委員会委員長表彰

有賀 良雄

東北地方保護司連盟会長表彰(家族功労者)

三森 美智子

福島県知事感謝状

森田 一實

福島保護観察所長表彰

砂塚 功

福島保護観察所長感謝状

※民間協力者

・JA東西しらかわ矢吹中央支店

・株式会社菊地測量設計

・根田醤油合名会社

・有限会社こばり製作所

・合資会社安藤製材所

福島県保護司会連合会長表彰

佐藤 勝

吉田 茂典

渡辺 浩志



受彰者のことば



法務大臣表彰
安部かよ子

令和元年十月七日東京国際フォーラムに於いて、全国から五、〇〇〇人が集い、厳粛ななか、天皇皇后両陛下のご臨席のもと、お言葉を賜り大変感激いたしました。又、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官・日本弁護士連合会会長・こ来賓の皆様から祝辞を頂き、身の引き締まる思いでありました。尚、第三十六回福島県更生保護大会に於いて、緊張のなか法務大臣表彰状及びメダルの伝達を頂いて参りました。身に余る光栄でございます。偏に観察所の先生方、地区保護司会の皆様方、特に主任官の先生には沢山のご指導とお力添えを頂いたお蔭と、深く感謝申し上げます。まだまだ未熟ではありますが、自己研鑽を重ね真心で向き合っておりたいと存じます。何卒ご指導ご教導の程、宜しくお願い申し上げます。

県更生保護大会に参加して

協力組織部会

深谷 拓男

初めて更生保護大会に参加させて頂き多くのことが心に残り学ぶことができました。

大会会場は保護司の皆さんの熱気に満ちあふれていました。記念講演の「福島自立更生促進センター」開設までの経緯と苦労。反対運動を乗り越え、地域住民の方々の理解と協力を得て開設できたこと。そして今に至っていることを知り深く心に残りました。また顕彰された方々のこれまでの献身的な努力と役割を思うと言葉に表せない感謝を受けました。

もう一つは、この大会を通して何よりも白河地区の保護司の皆さんと親交を深められたことです。あづま総合運動公園銀杏並木での散策と昼食会場での交流では、何気ない会話の中に保護司として活躍されている様々な思いを知ることができました。来年度は白河市が会場になることを聞き、日頃の活動に努力して行かなければならないと感じた一日でした。

協力企業紹介

福島保護観察所長感謝状受彰

JA東西しらかわ
矢吹中央店



株式会社
菊地測量設計



根田醤油合名会社



有限会社
こばり製作所



合資会社
安藤製材所

退任・新任保護司紹介

■退任

・伊藤 正美 (西郷村) 平成31年3月21日

・宇陀 大定 (中島村) 令和元年5月31日

・鈴木 紳一 (白河市) 令和元年5月31日

・潮地 龍勝 (白河市) 令和元年11月30日

■新任

・小松 道男 (中島村) 令和元年6月1日

・川瀬 光子 (白河市) 令和元年6月1日

・徳田 芳江 (白河市) 令和元年12月1日

・金沢 富士子 (白河市) 令和元年12月1日

編集後記

寄り添うその心で、社会復帰を目指す人の支えになるよう多くの保護司が尽力しています。対象者が平常の生活に戻るには、家族をはじめ地域社会の応援が大切です。

現在、少しずつ「社会を明るくする運動」が理解され、企業の協力も増えてきたことに感謝いたします。

お忙しい中、原稿をお寄せいただきました皆様、心より御礼申し上げます。

(文責 池嶋)